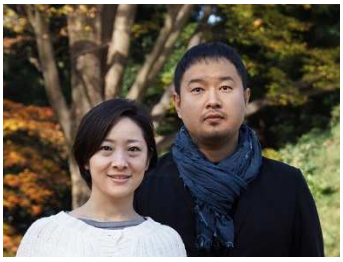
あずまちや【佳作】



設計者
十河彰・十河麻美子

◎設計主旨

空地を活用した町屋再生の試みです。現在の本町筋沿いには、歴史ある町屋が残りながらも、建物が取り壊された虫食い状の空地が散見され、連続した町並みは失われつつあります。また商店が減少し、町屋としての津島の歴史を残った建物だけが伝える場所となっています。こうした状況に対し、町屋に隣接する空地にあずまやをつくり町屋の妻側を開く改修を行うことで、商いの活気と人々の賑わいがつくる町並みを再生させる町屋モデルを提案します。

空地につくるあずまやは、木造フレームをブレースで補強したシンプルな構造体とすることでローコストでありながら町並みの風情を損ねません。これに隣接する町屋の妻壁に構造補強を兼ねた門型フレームを取り付け、開口を設けることで、津島型町屋にみられる用途の異なる複数の出入口のひとつとして、まちと人々をつなぐ仕掛けをつくります。妻壁に開口を設けることができれば、町屋のプランはより柔軟な変更が可能になり、シェアハウスやゲストハウスとしての活用も見込めます。また採光と通風が得やすくなり、居住環境の向上も望めるので、住居としての価値も高まります。一方で、あずまやの大きな軒下空間は、物販や飲食の商いに利用できるだけでなく、子育て支援施設の遊び場やワークショップスペース等にも活用でき、町屋の本来の姿である人々の活気が感じられる町並みの再生につながります。

◎講評

〇難波和彦審査委員長

本町筋に散在する空地に、多目的な空間である「あずまちや」を差し込み、隣接する町家の改修と合わせて、街並に賑わいを取り戻そうとする提案です。

あずまちやの外観は、周囲の町家に連続したシルエットを持ち、街並の景観を再生させます。あずまちやの内部空間は、がらんどうの空間で、隣接する町家に付属しながら本町筋に開かれており、市場や祭りの準備など様々なイベントに使用されます。

審査委員長としては、あずまちやの単純明解な一室空間を高く評価しましたが、他の委員には融通無碍な空間で提案性に欠けるのではないかという対照的な評価でした。

〇朝岡市郎審査委員

本町筋に増えている空き地に開放的でシンプルな構造の建物を建築し、隣接する既存の建物と一体として活用し賑わいを取り戻す提案です。

本町筋のおもむきとは少し異なるが隣接する既存の建物の生活環境が改善される提案です。もう少し開放的な空間の活用方法に提案があればさらに良かったと思います。

〇浅野聡審査委員

この提案は、空き地化した敷地に対して、ローコストでシンプルな屋根をかけて現代的なあずまやを設置する点が特徴的です。ローコストとして提案していることもあり、条件さえあえば社会実験として実現する価値のある提案と思われます。

将来的に津島の町並みの保全再生が地域合意されたと仮定すると、市によって景観計画等が策定されこの中で建築物や工作物の景観形成基準が決められていきますが、一般的には外壁、開口部、建具等の意匠は、景観形成上、町家に揃えて基準化されるため、その際にはこれらの部分についても再検討する必要が出てきそうです。

〇生田京子審査委員

空地にシンプルな屋根下空間を設けることで、地域のコミュニケーション空間を生み出すと同時に、隣家の奥と奥の空間を開放して地域に接続していくことも実現している。空地の目立ち始めた街道沿いならではの提案である。

個人的には、実現性の高いシンプルな操作で複数のことを解決に導いており、評価の高い作品であった。しかし他委員からは「津島ならでは」の踏みこみに弱いとの指摘がなされた。

〇清水裕之審査委員

町屋の間にできた空地に大きくシンプルな構造で屋根をかけ、その下を人々が集う半屋外のパブリックスペースとして提供するという案は優れている。

特に、できるだけローコストでわかりやすい空間を設定しようとしたことは、リアリティがある。しかし、あえてローコストな提案にこだわることで、出来上がるあずまやの空間の質を十分に表現できかなったことが残念であった。

○日比一昭審査委員

本町筋にこんな多目的コミュニティ空間が１つはあっても、面白いのではないかと考えます。ブレースや明かり窓のデザインをもう少しおしゃれにすれば、町家のイメージを損なわずに町並みを構成できるのではないかと思います。